

～2023年度入学式 ウクライナ大使からの祝辞～

Sergiy KORSUNSKY（セルギー・コルスンスキー）駐日ウクライナ特命全権大使より

名誉学院長 島田燦子様

学校法人文京学院理事長 島田昌和様

文京学院大学学長 福井 勉様

皆さま こんにちは、

本日は、このような機会をいただき、光栄に思っています。今日は、皆さんの人生において、とても大切な日です。これからどんな人になるのかを決める道に足を踏み入れるのです。大学では、ただ楽しく過ごす人もいます。またある人は、一生懸命勉強に打ち込み、自己成長に全力投球する人もいでしょう。現代では、ただ学ぶ、知識を得るだけでなく、その知識がどこから来ているのかを理解することが重要です。すべての人が成功を求めています、その道は人それぞれです。選ぶのは自分自身です。

私は2つの人生を歩んできたので、とても幸せな人間です。ひとつは数学者として研究や科学に携わる人生、もうひとつは30年続けている外交官としての人生です。あなたは自分の望むことをすべて実現することができます。私が言ったように、選択肢はあなた自身の中にあるのです。

文京学院大学の100年近い歴史が、島田依史子先生が「女性が自立するための技術を提供する」という目的で女子学院を設立し、始まったことは非常に重要な点です。単純な分析の中でも、現代社会で女性は、社会と経済の発展のために非常に重要で、強力な力を構成していることがわかります。私の個人的な経験からも、この結論は強く支持することができます。この基本理念を守りながら、大学は時代の変化とともに進化し、2005年には完全な男女共学の体制を整え、その歴史に新たなページを刻みました。これは自然な流れだと言えるでしょう。

もう一つ強調したいのは、この大学では「共生」の研究に特に力を入れていることです。21世紀において、人間と自然界、異なる文化圏の人々、異なる宗教、国家、社会システムの間で、「共存」を確保することが緊急の課題であることを忘れてはなりません。共存は未来への道であり、平和への道です。

また、ちょうど1年前、ロシアがウクライナを最も残忍で攻撃的な方法で攻撃したとき、この学校は侵略を非難する公式な声明を発表しました。それは次のようなものです。

『今現在、ウクライナで行われている侵略行為は、こうした若い世代の学びや願いを打ち砕く、許しがたい行為です。文京学院大学は、改めてここに建学の精神である「自立と共生」を掲げ、若い世代の学びを保障し、ウクライナ市民の安全と平和を守ることを切に願います。』

今日、ウクライナの若者たちは計り知れない苦難に耐えています。数十の大学が破壊され、授業は一時的に停止され、あるものはオンラインで、あるものは避難所で行われています。日本が 87 の大学に 460 人のウクライナ人学生を受け入れてくれたこと、そしてそのうちの一人、文京学院に初めてウクライナ人学生を受け入れてくれたことに、心から感謝します。これがほんの始まりに過ぎないことを願っています。そして、来年、100 周年記念式典に私を招待してくださった時には、このホールでもっと多くのウクライナ人を見ることができるでしょう。

私たちはこの戦争に勝つのです。太陽はいつも暗くなってから昇るものです。
しかし同時に私たちはこれも知っています。

「勝って兜の緒を締めよ。私たちは武士です！」
皆さんの平和と調和、そして成功を祈ります。
ありがとうございました。
頑張ってください！

